
SEED GEASS

魔蘿姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SEED GEASS

【著者名】

魔蘿姫

N7941F

【あらすじ】

世界の混迷、強国の支配、だから彼らは戦う道を選んだ。だからこそ、彼らは手を取り合つ道を選んだ。ならば世界に変革は訪れるのか？そして彼らの行く末は

キラはランスロットから死角になつてゐるスラスターの起動スイッチを押した。

スラスターは元々ナイトファルトとは別個のエネルギーがあるためナイトファルトが起動していくなくとも、起動するのである。

キラは起動と同時に強制帰還プログラムを発動させた。

キラの体に強烈なGがかかるとシートに押し付けられるように座りこんだ。

初速度限界の速さでランスロットの頭上を飛び出す、ランスロットが慌てて、ナイトファルトを見上げるが時既に遅しである。

小さくなるナイトファルトの姿を見ながら

スザクはかつてのキラを思い出していた。

セシルのプログラムの有効範囲から脱出したナイトファルトは機能を取り戻し、母艦へと降り立つ。駆け寄つてくるラクスにキラも笑みで答えた。

数日後

敷き詰められたカーペット、色とりどりの観賞物、人が十数人は暮らせるのではと思われる広さの部屋にまだ幼さの残つた顔立ちの少女と落ち着いた雰囲気をもつた男がいた。

少女は落ち着かない風に、資料に目を通す男を見ている。

読み終えた男は笑顔を浮かべ、少女に一言二言つげる。すると少女は満面の笑みを浮かべ、部屋を出ていった。

少女が出ていくと男は電話を取り、数回かけ用件を告げ、切つた。

もう一度豪華な椅子に座りなおした男は笑みを浮かべた。不気味なほど静かな笑みだった。

そこにはラクスとキラがいた。ラクシャータは黒の騎士団のナイトメアに手一杯で来ていない。

このラボには一人しかいない。理由は情報の流失を防ぐためであるのと

もう一つ、ここには一機のナイトメアがあるからであった。

いや、この機体をナイトメアと表すのは不適切だ。

ナイトメアとは生存を優先としたサバイバルコックピットである。しかし、この機体には脱出機関がない。当然と言えば当然である。これはキラのために存在するキラのための機体なのだ。

細身のこの機体は動力機関をナイトファルトからの流用でコグドラシルドライブを採用し、装甲や装備はなんとラクスのお手製である。驚くべきことにこのピンクの姫は開発分野にもたけた技術者でもあるのだ。

プログラミングなどにはキラのロロニーでの経験を生かした。

この二人のオーバーテクノロジーにはラクシャータでもえ、舌をまくだらつ。

来るべき時のために、自由の名を冠する機体は静かにその時をまつて いる。

第一話 タタ叫ブ心ノ自分（前書き）

激・短！です。すいません。次の更新はもう少し長いものにします。

第一話 タタ叫ブ心ノ自分

世界が完全なものと
ならないのは何故だろ？

それはきっと

人が完全ではないからだろう

「キラ・ヤマト……だつたか、あの少年」

「ハッ！第一級犯罪者キラ・ヤマトについては所属不明であり、黒の騎士団との関係は見い出せませんがナイト・オブ・ワン、ビスマルク・ヴァルトシュタイン卿には皇帝閣下は現地へ向かうようにと

……

黒い魔術師の様な風貌の男ははつやうやしく独眼のいかにも軍人らしい男に頭を垂れた。

ビスマルクと呼ばれた男は頭を垂れている使いの男を見ることなくナイト・オブ・ラウンズ専用の寂しさを感じさせるほどに広い部屋の壁に飾られた絵を見ている。

ほんの数秒黙つた後、使者の男に下がるよう命じた。

男がすぐに退出するとビスマルクはピアスで閉じられた左目を触つた。

（陛下が公式に私を動かすと言つことは……キラ・ヤマト……彼を事实上抹殺せよ、と私に命じられたことに等しい）

ビスマルクの頭にかつて会つたキラ・ヤマトの顔を思い浮かべた。

自らの良心を忠誠心でねじふせ、無実の青年をせめて全力を持つて殺すことを決め、先日、実践配備された自らの機体の場所へ向かつた。

壁にかけられた絵の中で黒髪紫眼の女性が笑つていた。

ブラッククリベリオン

五日前のことである。

キラとラクスの田には共に同様の驚きが表されていた。

ピンク髪の穏和な雰囲気の少女は普段のそんな空氣を感じさせない真剣な顔付きで高らかと《行政特区日本》を宣言したのだ。

ラクスはすぐに彼女、コーフェニアが及ぼすだらう影響を看破した

……いや、悟った。

今までに感じたことのない寒気がラクスを襲った。

ただ頭から笑いあつたコーフェニアの笑顔が離れない。

今は戻らなくてはエリア11、日本へ

ブラッククリベリオン一週間前のことである。

、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7941f/>

SEED GEASS

2010年10月12日08時04分発行